

第4節 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

1. 小串宿舎B棟埋設ガス管改修工事に伴う立会調査

調査地区 小串構内宿舎B棟南西側空地

調査面積 58㎡

調査期間 平成22年1月14日

調査担当 横山成己

調査結果 小串構内北部の教職員宿舎敷地において、ガス管改修工事が計画された。当工事計画は、平成20年度末に開催された第10回埋蔵文化財資料館専門委員会に事業計画書が提出されていたが、工事内容の詳細が不明であったため、埋蔵文化財保護対応を未定として保留した計画であった。平成21年9月に至り、工事内容の詳細が確定したことを受け、管轄自治体の指導の下、館長・副館長・資料館員の協議の上、新規掘削予定地に限り工事中の立会調査が必要と判断し、文化財保護法93条書類の提出を行った。立会調査は、年を越えた1月14日に実施した。

新規掘削予定地は、宿舎B棟の南西部分に当たる(図63)。当地点に関しても、その半部は平成16年に実施した医学部職員宿舎他公共下水接続工事に伴う試掘調査^{註1}により調査を実施した区域と重複していた(図75)ため、地下の様相は詳細に把握されていた。0.9mに止まるこの度の掘削では、遺物は包含されるものの近世以降の遺物が主体である旧耕土内に収まることは明確であった。調査の結果、予測通り約0.2mの旧耕土を確認した(図64・写真138)が、遺物は出土しなかった。

小串構内では、学部校舎や病棟が集中する南部域は既設建物が密集するため、新規建物等は北部域に計画されることが予想される。北部域は埋蔵文化財の分布が密であり、今後も慎重に対応したい。

【註】

- 1) 横山成己(2006)「医学部職員宿舎他公共下水接続工事に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』,山口



図 63 調査区位置図



写真 138 北西壁土層断面 (南東から)

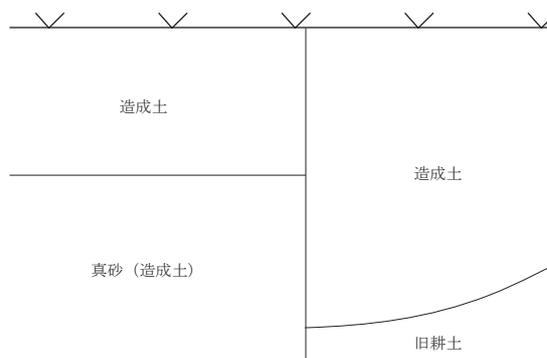


図 64 土層断面模式図 (S=1/20)